



Kashima Arts

An Exhibition of
Japanese Paintings and
Works of Art

2019 SPRING

BISAI SEN 撰



暁斎の
最高傑作を
彷彿とさせる
美人画

暁斎の最高傑作と言われている美人画「地獄大夫」を彷彿とさせる本作。玄宗皇帝の寵愛を一身に集め、世界三大美人と讃えられる楊貴妃が優雅な佇まいで琴を奏で、音楽に興じている。表情の艶やかさ、しなやかな髪の毛、繊細な指先、極細の金線で装飾された衣服の模様に至るまで極密、流麗な筆致で描いている。美しさ、芳しさにおいて百花の王と呼ばれる牡丹が大輪の花を咲かせており、香りにおいても絶世と詠われた楊貴妃を讃えるかのようなのである。「画鬼」と呼ばれる大胆な作風が取り上げられる暁斎だが、狩野派のみならず大和絵、肉筆浮世絵にいたるまであらゆる流派を研究し、比類するものがない世界を描き出している。



026

河鍋 暁斎 かわなべ きょうさい
楊貴妃之図

絹本 着色 関谷伊重郎箱書
河鍋暁雲鑑定証
138×71 cm / 242×85 cm

Kawanabe Kyōsai (1831-1889)
Yang Guifei
Color on silk, with a box signed
and sealed by Sekiya Ijuro,
with a certificate of authenticity by
Kawanabe Kyoun

¥450,000



036

西郷南洲 さいこうなんしゅう

梅子金黄

紙本 額装

西郷南洲顕彰会鑑定書
16×47cm / 39×85cm

Saigo Nanshu (1827-1877)

Calligraphy

Ink on paper, framed,
with a certificate of authenticity
by Saigo Nanshu Kenshokai

¥1,500,000



【読み】

田園雑興
梅子金黄肥
稲苗牧童烟
暝笛声遥前
山雷動後山
雨新漲看々
拍小橋

【大意】

梅の実は黄金色に熟し
稲の苗は大きく育つ
夕暮れの中
牛を追って牧童が
鳴らす笛の音は遠ざかる
ごろごろと雷鳴が轟くや
どこかで雨が降り始め
見る間に川の水が漲り
小橋の橋桁を打ち付ける



モナリザの 微笑み

京都の先進的な画家が拠り所としていた国画創作協会の解散に伴い設立された新樹社。本作は昭和4年の第一回新樹社展に出品された大作で、新たな活動に意欲を注いだ甲斐庄の意気込みが満ちている。大正期に特有の耽美な美人画表現は余韻を残しながらも洗練され、全体に明るい色香を漂わせる。背景は金を基調として華やかに描かれる一方、女性の衣服にはピンクや水色などの色調を用い淡い情趣を醸し出す。若くしてダヴィンチに傾倒し、モナリザの微笑を参考にしたという甲斐庄。微笑む女性の表情は魅惑的で、無防備に横たわる姿は妖しく官能的である。「春」という画題に相応しくうらかな、どこか退廃的な白日夢を見ているように、観るものを惹きつけて離さない魔力を放つ。



052

甲斐庄 楠音 かいのしょうただおと 春

二枚折屏風 絹本着色
第一回新樹社展出品
日本経済新聞社
「大正日本画の異才」
いきづく情念 甲斐庄楠音展」所載
日本経済新聞社
「甲斐庄楠音と大正期の画家たち」所載
97×150cm / 139×178cm

Kainosho Tadonoto (1894-1978)

Beauty

A two folding screen, color on silk,
exhibited at the 1st Shinjusha Ten,
appeared in "Kainosho Tadonoto
A Striking Painter of Nihonga
in the Taisho Period-Pulsating Passion"
and "Kainosho Tadonoto and Painters of Taisho Period"
published by Nihon Keizai Shinbun Sha

¥200,000.000





竹久夢二 たけひさゆめじ

春宵新装

絹本 着色

サンケイ新聞社「生誕100年記念竹久夢二百撰展」出品
毎日新聞社「宵待草70年の歳月竹久夢二展」出品

山陽新聞社「竹久夢二名作全集」所載

113×40 cm / 186×54 cm

Takehisa Yumeji (1884-1934)

Beauty

Color on silk, exhibited at the 100th Anniversary of
Takehisa Yumeji Hyakusen Ten sponsored
by Sankei Shinbunsha, exhibited at the 70th Anniversary of
Takehisa Yumeji Ten sponsored by Mainichi Shinbunsha,
appeared in Takehisa Yumeji Meisaku Zenshu
published by Sanyo Shinbunsha

¥550,000

夢二式
美人の
真髓

大正前期の作。この頃、夢二は明治末の悩みや躊躇いから抜け出し「どんたく」「昼夜帯」などの詩画集を成功させ、ロマン溢れる独自の美人像をつくりあげた。『桜湯』と書かれた暖簾をかき分け、風呂上りにほほを紅潮させ、装いを新たに待ち人のもとへ向かう美人。待っているのは夢二自身であろうか。夢二の描く女性はいま、しばしば哀愁に満ちた眼差しをしているが、本作は微笑ましく温かみのある世界観を持つ。白く細い身体、わずかにS字にくねらせた立ち姿。滲み出る得も言われぬ慕情。本作には夢二式美人の真髓が余すことなく表現されている。